

令和8年度 第1回北九州市社会教育委員会議(要旨)

1 日 時:令和8年5月21日(木)10:00~12:00

2 場 所:生涯学習総合センター 2階 第2・3研修室

3 出席者:委 員 野依議長 他 10名
事務局 総務市民局長 他 6名

4 議題、議事の概要

(1)総務市民局長挨拶

(2)議長挨拶

(3)議題

①北九州市生涯学習ビジョン 令和8年度実施計画 について

②令和8年度社会教育関係団体補助金について

(4)講演

「社会教育・生涯学習に関する北九州のあゆみと課題」

講師 北九州市立大学 文学部 人間関係学科 教授 恒吉 紀寿 氏

5 主な質疑応答、意見等

議題① 北九州市生涯学習ビジョン令和8年度実施計画について

事務局: ≪北九州市生涯学習ビジョン令和8年度実施計画について説明≫

委 員: 北九州市立大学との連携事業について、昨年度の実績は 125 名である。今回は「大学1年生がチームを組み、市民センターに訪問し」と大枠の説明があるが、詳細を教えていただきたい。

事務局: 学生は 16 館に分かれ、様々な地域の課題とか、地域の方たちと交流するような事業を考えている。内容としては、市民センターや地域活動への大学生の参加、大学生による地域に必要な講座の企画、大学生と市民センターや地域住民との協働による実施事業、大学生の活動の成果発表会の開催。市民センター館長、地域の方々が大学生と一緒にどういった事業をするのかというところは、センターの中で進めていくような形である。

委員：資料にある「生涯学習活動に対する満足度」等が約8～9割と高い一方で、「活動参加をきっかけに地域活動に参加した割合」が13%とすごく低い。参加者が固定化されているのではないか。例えばアンケートに、「初めて参加をしましたか」等の設問も必要ではないか。参加者の固定化・高齢化が問題となっている。SNS や LINE 等の活用、短い動画での発信、また「初心者歓迎」といった表示により参加のハードルを下げる必要がある。ただ単に講座数を増やすだけでは駄目なのではないか。

事務局：指標については、統一アンケートや市政モニターアンケートでの回答を現状として目標値を定めている。今回、例えばこの生涯学習活動に対する満足度とか幸福度の数字は高いが、「学び」と「活動」をしていく中でウェルビーイングを向上させるには、この満足度とか幸福度というのは大事なことだと思っている。地域力を育成するためには、地域の関心や地域における関わりの変化は地域づくりには欠かせない。そのことから、数字は高いが、指標とさせていただいた。

「生涯学習活動への参加をきっかけに、地域活動やボランティア活動へ参加した割合」が13%というのは低いですが、人材育成の事業の中で様々なアンケートを取りながら、こういった形でこの数字が上がっていくのかというところはアンケートを通じながら進めていきたいと思っている。

委員：7枚目の、未来の創り手を育てるというところの項目について、子どもたち・若者を支える大人の育成も同時に必要ではないか。出会いが悪かったり、そこでの経験が良くなかったら、その後の地域活動への参画にはつながらないと思っている。新規事業ということなので、導入に関して丁寧に行っていただきたい。

事務局：市民センターで活動する小学生やボランティアとして取り組んでいる子どもたち、若者をしっかりと取り上げ、その方々が地域に入ってどういった活動ができるのかということについては、このコミュニティ・クルー事業を通して丁寧に進めていきたい。

議題② 令和8年度社会教育関係団体補助金について

事務局：《令和8年度社会教育関係団体補助金について説明》

議長：意見を伺う前に、関係団体の皆様に、一時退席をお願いする。

《関係団体委員退室》

委員：地域の自治会や町内会が学校単位で育成している団体を市は把握しているか。

事務局：全体でどういったところの地域の NPO が入っているかとかいう全体感までは、把握できていない。

委員：地元の自治会などが、学校に対して講座をやったりとか、そういったものにも補助を出すことはできるか。

事務局：「遊びの広場」などの枠組みを活用すれば、NPO等の活動にも補助金を支出する仕組みはある。PR を強めていかないといけないと思う。

《関係団体委員入室・着席》

講演「社会教育・生涯学習に関する北九州のあゆみと課題」

事務局：《講師紹介》

講師：《講演》

《3グループに分かれて討議》

委員：改めて市の歴史を学ぶことで、自身の活動における疑問や実体験が整理された。普段実践をしていることをこの場で臆することなく発言し、この場で得た知識や経験をまた実践に戻していくという、自分自身の循環のようなものが必要だと感じた。それを心がけることが社会教育委員の活性化につながるのではないかなと思う。

委員：顔を合わせてみんながつながっていく取組を地道に続けていくことが大事。つながりづくりの仕組みが必要だが、そのひとつに学校が起点になるのではないかな。委員として学び続け、これからも地道に取組を続けていこうと思う。

委員：地域差や施設の利用者の固定化・高齢化という課題に対し、共に学んだり事業をする協働が必要であり、外部の人のアドバイスをいただけたらいいのではないかな。社会教育委員としてそれぞれ団体を背負って出てきている委員が多いので、自分たちで事業をするときには、皆さんに助言ができるようなことができればいいのではないかな。

議 長：日頃当たり前のように使っている社会教育主事や社会教育関係団体等の言葉について、法的な背景を知ったり歴史を知ることはその本質を知ることなのだと思います。公民館が戦後「民主主義の学校」と呼ばれた時期があったが、そういった視点・姿勢がやはり大事だと改めて思った。